



TCC30周年に寄せて

高階幸一

今から20年近く前、長男が登美ヶ丘カトリック幼稚園年中の時、カミさんが「教会のテニスコートで講習会をやっているよ」という一言がきっかけで、TCCのテニス部そしてTCCに入ることとなりました。

テニス自体は経験がなく、なかなか上達はしませんでした。TCCが協力する「夏まつり」、「教会バザー」、テニス部の「バーベキューパーティー」等の各行事に参加する内に、会社やご近所の人とは異なるある種新鮮で、足が地についた人間関係にはまってしまい、現在に至っております。

このようなクラブを30年前に創設されたグリーン神父様の「先見の明」と、TCC諸先輩の礎があるからこそ、今我々がTCC活動をやれるものと思っております。

TCCの居心地が良いのは、共通の趣味で集っているということはもちろんありますが、人間関係が縦でなくフラットなことにあるのではないのでしょうか。テニス部の面々を見まわしても実に多彩で個性的な人々が集っており、肩書き、年齢にとらわれないで、素の自分を出し合っています。

創設時の時代背景や環境と変わっていますが、人とのつながり、社会・地域への奉仕という本質が不変である限りTCCは存続するでしょうし、先行き不透明な時代だからこそTCCの存在意義が発揮されるものと確信します。

TCCの一員であることに誇りを持つと共に、グリーン神父様そしてTCCの諸先輩に敬服感謝致します。